

岐阜県教育委員会

令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告 岐阜県教育委員会

1. 背景・目的

長期入院等の生徒が、**安心して学ぶことができる環境を整備**する。オンラインに加え、ICT 機器を活用した効果的な**オンデマンド型の授業の実施方法**について検討する。また、医療機関や学校に向けた研修会、ガイドブックによる**広報活動**を行い、長期入院生徒等の学習保障の必要性を県全体に発信していく。

2. 実施体制

運営協議会委員

- ・岐阜大学医学部附属病院 小児科医
- ・岐阜市民病院 小児科医
- ・岐阜聖徳学園大学 講師(特別支援教育)
- ・長良特別支援学校校長(病弱教育コア・スクール)
- ・岐阜県総合医療センター 小児科医
- ・岐阜県立看護大学 准教授(小児看護学)
- ・中津川工業高等学校長

研究チームA(研究委員)

「ICT機器を活用した
オンデマンド型の授業
の実践研究」

- ・岐阜聖徳学園大学 講師
- ・中津川工業高等学校 教諭
- ・西濃高等特別支援学校 教諭
- ・高校教育課 指導主事

運営協議会

研究チームB(研究委員)
「入院生徒の学習保障に
関する研修会・広報活動」

- ・看護師
- ・臨床心理士
- ・医療ソーシャルワーカー
- ・郡上高等学校 教諭
- ・長良特別支援学校 教諭

岐阜県教育委員会 特別支援教育課
総括・企画・予算管理 等

3. 実施内容

ICT機器を活用したオンデマンド型の授業の実践研究 (研究チームA)

○機器整備

配信のしやすさ → キヤスター付き三脚、モバイルバッテリー
オンライン授業をとにかく録画する

○平易な録画・視聴方法の提示

○聞こえやすさへの配慮 → 教師用ピンマイク
※授業の臨場感を大切に



○身に付けさせたい資質・能力への対応

【例】

・思考力・判断力・表現力：他の生徒の意見を参考に**自分の考えを深める**

→ **集音マイク**の活用

(グループワークで生徒の声を聞きやすくする)



・知識・技能：**道具の扱い方、手順、留意点をまとめる**

→ **ウェアラブルカメラ**の活用

※復学後に実技や実習を行う



ウェアラブルカメラの教員目線

令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告 岐阜教育委員会

3. 実施内容

「入院生徒の学習保障に関する研修会・広報活動」 (研究チームB)

①研修会の実施

実施：令和6年1月25日

参加：140名（オンライン含む）

高校の特別支援教育コーディネーター・養護教諭、
小中学校、特別支援学校の教員、医療機関

内容（講演、パネルディスカッション）

テーマ「**白血病高校生 院内学習の実態**」

講師 遠隔教育を実施した生徒の保護者

パネラー 岐阜市民病院 小児科医

特別支援学校 教諭（特支コーディネーター）

感想

- ・保護者の立場からの話を聞いたことは、貴重な機会。
- ・「治療に専念するだけでなく、学校に戻るという目標を持たせながら勉強をしていくことが大切だ」という医師の言葉が印象的。
- ・学びたい気持ちが生きる力にもなる。



②リーフレットの発行

「**岐阜県における
入院高校生の学習保障**」

発行 令和6年2月

内容 ・入院高校生の学習保障
内容の説明
・実施生徒体験談

大切な仲間たちと過ごした最後の夏
新たな道を歩む先輩からのメッセージ



③ガイドブックの発行

「**病気療養中の生徒への支援
ガイドブック**」

発行 令和7年3月

内容 ・効果的なオンデマンド型
授業の方法
・入院を支える支援の事例



※リーフレット・ガイドブックは県教育委員会HPに掲載



3. 結果

支援の状況

- 今年度実績 5名（高等学校4名、特別支援学校高等部1名）
- 実施教科…実技を伴わない教科が中心であるが、実技教科も一部実施した
(例) ・オンライン 「美術」…病室にて粘土で制作物
・オンデマンド 「家庭」…自宅療養中に巾着袋を製作
※保護者の協力による「**受け渡しボックス**」の活用
- 学習評価の実施方法と工夫
 - ・学習プリント（ICTも活用）や制作物の提出 ・代替課題（レポート提出）
- 復学に向けた支援
 - クラスメイトによる協力**（配信準備、移動教室時にタブレット端末の移動 等）
→ 声かけ、休み時間の関わり ※**つながりがあることでスムーズな復学へ**
- 関係者の声
 - ・本人「機材がそろっているので安心できる」
 - ・保護者「学校のバックアップ体制がある」
 - ・教員「みんなで生徒を支援していこうという雰囲気がある」

4. 成果・課題

○取組の成果・効果

- ・学習評価：オンデマンド型授業でも、資質・能力の3つの柱で測ることが可能
→ ICT機器・学習管理アプリの活用 ※「技能」は復学後に実施
- ・病院との連携：病院側と学校側の復学に向けた共通認識
(病院…単位取得や卒業への理解 学校…教育が治療へ励みとなる)
→ 入院時の支援会議の充実に繋がった

【今後の取組】

○遠隔教育の方向性・展望

- ・機器一式を貸し出し、状況に応じて、必要なものを活用してもらう
→ 生徒や教員から要望が出た時に対応できる状況にしておく
- ・ICT機材（特にウェアラブルカメラ）で、すべての生徒にとって繰り返し学習が可能
→ 日頃の授業の延長線上にオンデマンド型授業があるように

○本事業の取組の周知

- ・関係する担当者への説明（行政説明の機会 等）
教務主任、生徒指導主事、養護教諭、特別支援教育コーディネーター